

2003 年度 WG 活動成果報告

(2004 年 3 月 10 日作成)

WG 名	住宅水環境性能検討 WG	主 査 名：大塚 雅之
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会(水環境小委員会)	委員長名：鉾井 修一
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	住宅の水廻りの空間に設置されている給排水衛生設備及びその周辺環境に要求される性能を 8 つの評価軸を定め、定量的にトイレ、台所などの水廻り空間の環境性能を評価する手法を提案する。本年度は必須、付加機能を明確にした建築計画系技術者に対するアンケート結果から実際の設計事例の評価を行う。	
委員構成 (委員名(所属))	主査；大塚雅之(関東学院大学) 幹事；加藤正宣(ベターリビング) 小池道広(長谷工コーポレーション) 委員；青柳直樹(東陶機器) 一色貴子(関配) 鎌田元康(東京大学大学院) 野崎利樹(都市基盤整備公団) 小瀬博之(東洋大学) 倉田丈司(INAX) 高橋紀行(竹中工務店) 西本賢二(東京大学) 宮崎剛(サンウエーブ) 山田賢治(西原衛生工業所)	
設置 WG (WG 名：目的)	住宅水環境性能検討 WG：住宅の水廻りの空間の環境と付帯する給排水衛生設備の性能評価手法を提案することを目的とした。	
2003 年度予算	45000 円	

項 目	自己評価
WG 活動状況 (開催日・参加人数)	開催回数 8 回 参加者数 平均 9 (名/回) WG 委員総数 14 名
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>既定案の住宅の水廻りの環境性能評価手法(トイレと台所空間)を再度見直し、評価項目シートを策定し、アンケート調査を実施した結果以下の知見を得た。</p> <p>1) 評価軸は、既提案とおり 8 軸とし、各軸に該当する各種評価項目を見直しその重要度を定めた。更にその評価項目下に品質項目を定めそれらが必須であるか付加機能かを判断できるチェック項目を示し、情報収集用の調査シートを定めた。</p> <p>2) 1) を用い、学識経験者、設備技術者、建築計画者、学生等にアンケート調査を実施し、評価軸の重み付けや評価項目、品質への要求程度に関して検討した。その結果、各属性による意識の差異は各所に見られるが、それらを考慮した明確な重み付けは難しいことを結論とし、現行の評価法どおりのポイント制(各軸均等の重み)で評価を行う。但し、品質項目に関しては、属性による差異の大きかった項目を、重要なチェック項目とし再整理を行うこととした。以上より、トイレと台所空間に限定するが定量的な裏付けに基づく軸の重み付け、評価項目と要求品質を定めるための知見を得た。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>評価軸の策定を行う際に必要となる、職域、属性の違いによる意識を調査したが明確な差異は見い出せなかったため、軸の重み付けは一応、行わず現行どおりとする判断材料を得た。また、素人(ここでは学生を想定)とエキスパートとの評価項目に対する重要度や意識の差異を定量的に把握でき、設計者が今後活用できそうな品質チェックシートの素案が作成できた。</p>
その他評価すべき事項	特になし